

## 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトと地域貢献活動

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター センター長 李永俊

まずは、このたび深浦円覚寺の貴重な資料群が、「円覚寺真言・修験聖教類及び文書」として青森県の県重宝指定を受けましたことを心よりお祝い申し上げます。

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターを基盤とする深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトは、平成二十九年（二〇一七年）の調査開始から数えて五年目を迎えました。昨年度に引き続き本年度もまた、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に振り回され、各所各種のイベントや催し物が延期もしくは中止を余儀なくされました。しかしながら、本プロジェクトが地域貢献活動の一環として調査のお手伝いをさせていただいている深浦円覚寺聖教の県重宝指定を記念するオンライン型フォーラムの開催、および『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第四集の刊行に至りました。これも、ひとえに深浦町長をはじめとする深浦町の皆様、ならびに本プロジェクトに篤い関心をお寄せいただいている津軽青森地域そして全国の皆様方の御支援の賜物にほかなりません。改めまして深謝申し上げます。

第四回となる本年度のフォーラムは、昨夏の全国規模に及ぶ第五波の収束を期するのごとく、九月二十六日にZoomを用いたオンライン配信として開催いたしました。昨年度と同様、弘前・深浦・東京をオンラインでつなぐも、うひとつの地域連携発信型”を実践する恰好の機会となりました。今回は特別講師として、名古屋大学名誉教授の阿部泰郎先生に改めて御登場たまわり、八戸学院大学短期大学部客員教授の三村三千代先生には研究者としてのみならず県民代表としての御登壇をお願いし、本プロジェクトを始動した大正大学教授（前・弘前大学人文社会科学部教授）の渡辺麻里子先生には調査の軌跡と展望をご披露いただきました。その上で、寺院資料調査から地域文化振興を考え

るための意見交換をする場となりましたことは、非常に有意義な機会でありました。津軽地域から青森県の重要な文化財として認知された深浦円覚寺の貴重な資料群が、さらに新たな地域文化資源として全国的かつ学術的な視座から定位されることを期待するところです。

なお、本年度につきましても、公益財団法人青森学術文化振興財団より「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽青森地域振興事業」に対する助成を受けることができました。青森学術文化振興財団による研究助成は最終年度の節目となりますが、持続可能な地域貢献活動の一環として、本プロジェクトは引き続き地域連携と全国への情報発信に努めて参る所存でございます。改めまして皆様の御理解と御協力に感謝いたしますとともに、引き続きの御支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(令和四年(二〇二二年) 一月吉日記)